



やってみた日、  
それがあなたの  
アースデイです。

環境問題は、ある意味では人とそれ以外の生物、人と地球、人と人のコミュニケーションの問題ともいえます。

そして私たちはだれも、この地球と100%自分を主体として関わっています。それは、家族や友人、大切な人たちとの関係に似ています。

だからこそ、アースデイのリーダーシップをとるのは、私たち一人ひとりなのです。

アースデイには、代表も規則もありません。ただ、次の2つのことを行っていきたいと思っています。

①アースデイは、民族・国籍・思想・信条・政党・宗派をこえて、だれもが自由にその人の方法で、地球環境を守る意思表示をする国際連帯行動です。

②アースデイは西暦2000年にむけて、毎年10年間続けます。

すべての人が同じように、かつまったく自由に起こせる、世界初のそしてたぶん唯一のアクションがアースデイです。

共通のアースデイマークを使ってもらうこと、みんなの活動を互いに知らせあうためにアースデイ事務局に活動状況を知らせさせていただくこと以外、「~しなければならない」という制約はありません。さっそくいまから、自分と地球とそこに住むたくさんの生命との対話、アースデイアクションを起こしてください。

## アースデイ・1990↔2000・日本

連絡先：東京都千代田区平河町1-7-3 〒102

市民運動全国センター気付

Tel : 03-3234-3844 Fax : 03-3263-9175

振込先：郵便振替 東京9-539138

アースデイ 1990 日本・東京事務局

# アースデイ

## はじめての方へ

### アースデイ

—— 地球のために行動する日。

地球に住むすべての人が、

自由に、どこでも、いやすく、

アクションを起こせます。

大切なのはやってみること、

そして続けること。

アースデイは一人ひとり、

誰もがリーダーです。

# はじめに

街頭で見かけるビラ配り。受け取って 5m 先の路上に  
ポイ! 配る方も受け取る方もゴミや森林資源のことな  
んてお構いなし。つけっぱなしの電灯にテレビ、車の窓  
から空き缶をポイ捨て、夏にふるえるオフィスの冷房…。  
あなたにも覚えがありませんか? みんなけっこう無頓  
着。そんな無頓着さが、地球をいつのまにか蝕んでいた  
のです。地球の危機は、はるか未来のことではありません  
。レモンジュースのような雨、立ち枯れて沈黙する森、  
穴のあいたオゾン層、地球はますます暖められ、砂漠は  
ますます広がっています。

## 4月22日はアースデイ

病んでいる地球、どうしたら救うことができるのでしょうか？オゾン層の破壊、温暖化、熱帯雨林の破壊、その他さまざまな世界大の脅威を前にして、たいていの人は無力感にうちひしがれてしまいます。けれども、地球上に生きている私たち人類が、この泥沼に自分たちを落としいれたのですから、私たち自らが、これを救い出しへきです。

一人ひとりが行動し、さらにまた多くの人びとが力を合わせることによって、とてもないことをなし遂げることができるのだという信念に根ざし、世界中のひとが手をとりあって未来を切り拓いていくためのアクション、それがアースデイです。アースデイは、絶望感に打ち勝つ希望を与えてくれました。

アースデイの誕生は、1970年4月22日。アメリカで行われ、その後10年ごとに開催されてきました。さらに90年のアースデイでは90年代を“地球環境の10年”と位置づけ、今後は毎年行われます。

地球の営みに国境がないように、まさに今、「地球規模で考え、地域で行動する」ことが求められています。アースデイが成功する



かどうかはあなた次第。何々をしなければならない、という決まりはありません。一人ひとりが自らの意思とアイデアで行動することです。

**1970**

1970年4月22日、アメリカで行われたアースデイを組織したのは当時スタンフォード大学の全学学生自治会委員長をしていたデニス・ヘイズ氏。全米の学生や地域社会の住民など、なんと2000万人以上もの人々が参加し、環境への関心を何らかのかたちで表現したのです。

例えばー

- ◆ ニューヨーク市では市長が5番街からすべての自動車を締め出し、サンフランシスコでは10万人もの人びとが「エコロジー・フェア」に繰り出しました。
  - ◆ 連邦議会は、議員たちがそれぞれの出身地で環境問題についての討議会などに出席できるよう正式に休会となりました。
  - ◆ 3つの商業テレビネットワークは全米各地のイベントの実況中継を行い、公共放送は一日中アースデイの特別番組を編成。さらに、多くの全国紙・地方紙は環境問題の特集記事を組みました。
  - ◆ 自動車労連は、スマッグの出ない車を呼び物にして、セントルイスのダウンタウンをパレードしました。
  - ◆ ある学生は地球の尊さを表現するために、キャンパスの土を集めて袋に入れ、銀行の夜間金庫に1年間“預け”続けたのです。

このほかにも、実に多彩なアクションが展開されました。

このアースデイをきっかけに、その後も引き続き人びとの関心が環境問題に払われるようになり、環境保護庁設置をはじめ大気浄化法、水質浄化法などさまざまな環境法が整備されたほか、環境問題についてマイナスの態度を取り続けていた議員が選挙に落選したりしました。その他、超音速旅客機の開発がストップし、軍は東南アジアにおける枯れ葉剤の使用を禁じられるなど、アースデ

イの影響は、あらゆるところに及んだのです。1978年には“サン・ディ (Sun Day)”という代替エネルギー開発時代の始まりとなった国際イベントも開催されました。

## 1990

1970年アースデイ以来、様々な取り組みがあったにもかかわらず、地球環境の悪化は進む一方で、危機感を持つ人も増えました。そして、1990年代を“地球環境の10年”にしたいという人びとの意思が、アースデイを世界141の国・地域、2億人の参加者を集めるほどの一大イベントにしたのです。

アメリカ合衆国を始め、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアやカリブ海の小さな国々まで、世界中一斉にアースデイアクションが繰り広げられました。

日本では全国200カ所、1000をこえるグループが参加。東京・夢の島のフェスティバルでは、アキ缶をチケットとしたコンサートや環境テント市などが行われ、3万人の参加者を集めました。その他、日本各地でシンポジウム、記念植樹、ごみ拾い、自然散策、登山、スキューバダイビング、カヌー競走、リサイクルや手作りハガキ、廃食油のせっけん作りの実演と、自由な発想でバラエティにとんだ楽しいイベントが催されました。

“人びとの意識の変化”、これは90年アースデイの大きな特徴の一つです。一人ひとりの生活と行動で、地球と私たちの将来に大きな違いがつくりだせるということ。破壊・汚染という地球の病いはすべて同じように、世界中のどこもかしこも蝕み、だれも彼も影響を受けるんだということに、改めて気づいたのです。

そして、たくさんの人人がアクションを起こし始め、今まで活動してきた人同士も手をつなぎはじめました。

さらに90年のアースデイをきっかけにライフスタイルの見直しと地球にやさしい生活を提案した



「地球を救う133の方法」、企業の環境に対する責任と配慮を考えた「バルディーズ原則」が紹介されるなど、具体的な動きも活発になりました。

1990年4月22日のアースデイは、それぞれの国・地域・個人にとって、これから10年、自分たちのアースデイをつくっていくための希望に満ちたスタートになったのです。

## 1991

91年のアースデイは、札幌・中島公園でのリサイクル・フリーマーケット、東京・日比谷でのコンサートおよび多くの市民団体が出店した環境テント市・パネル展、長野のアースデイ飯山ゴミひろいハイキング、香川でのドングリの種まきなど、日本各地でさまざまなイベントが行われました。アースデイは、地球環境という大きな枠組みからゴミ問題や脱原発、リサイクル、水の污染防治など個々の問題へと深まりを見せ、確実に地域に根づき始めています。

一人ひとりの取り組みが具体的になるにつれ、個人で行うことの限界も見えてきました。そこで生まれたのがネットワークです。各地で独自にアースデイに参加していた人たちがお互いに手を取り始めたのです。その結果、一人ひとりで取り組むよりも、より効率的に、効果的に、グローバルに問題と接することができるようになりました。市民レベルのネットワークが力を持ち始めたのはとてもたのもしいことです。

91年はスーパーマーケットをはじめ、いくつかの民間企業の協力も得られました。どんどん広がるー。このアースデイの理念の下に今後も民間企業や政府へのアピールも続けていきます。そして、協力を求めます。

年ごとに広がりをみせるアースデイ。次回はどんな姿を見せてくれるでしょうか。個人個人の関心が多様化する現代社会の中で、どれだけ効果を發揮させて運動を続けていけるか。勝負はこれからです。



## 西暦2000年に向けての目標

### 大気圏の保護

- オゾン層を破壊する化学物質の排出を禁止し(1994年)、製造を中止(2000年)。
- 化石燃料による二酸化炭素の放出を20%削減(2000年)、排出量を年間20億tに減らす。※ちなみに1988年56.6億t/年。
- 亜硫酸ガスの排出量を90%、窒素酸化物の排出を75%減らす(2000年)。
- 自動車からの汚染物質を50%削減(1995年)、公共交通、代替エネルギーの乗物などに投資する。

### ゴミの削減

- 固体廃棄物を75%削減し(2000年)、リサイクル体制の強化とリサイクル可能な国際的デザイン基準の設定。リサイクル不能な包装の禁止をする。
- 原料削減計画で有害廃棄物の排出を80%削減(2000年)。
- 有毒・有害および核廃棄物を、受容できる安全レベルまで削減。

### 安全で持続性のあるエネルギーシステムの創造

- 居住用30%、産業用35%、輸送用40%それぞれエネルギー消費を削減(2000年)。
- 更新可能なエネルギー源電力を10万メガワット供給(2000年)。
- 水素燃料、および太陽エネルギーにつ

いての国際的研究開発予算を、10年間で50倍に増やす。

- 新たに原子力発電所をつくらない。
- 人間の基本的欲求への対応
- 農業使用量を75%削減。市場に近いところで穀物を育て、エネルギー投入量の少ない農業、土壤の浸食を減らすため耕す深さが浅くてすむ穀物を奨励する。
- 食物連鎖の段階の早い、より健康的な食物へ転換する。
- 必要としているすべての人びとに避妊薬(具)を提供し、世界人口を80億まで安定させる。

### 種の多様性の向上と保護

- 公園・生態系保護地域を3倍に拡大。
  - すべての原生林伐採の禁止と私有多雨林の最大限の保護。
  - 1.3億haの森林再生(2000年)。
  - 債務国救済のため国際的融資政策、ODAを持続可能な開発を保障する基準とリンクさせる。
  - 国際自然保護連合(IUCN)モデルに従い、生物種の多様性を保護する国際基金をつくる。
- ### 安全な水資源の保障
- 未処理の産業廃棄物・医療廃棄物の河川、湖沼、海洋への投棄禁止。
  - 分流式下水道方式の導入と産業排水の再利用、生活排水の自然還元に努める。

- 各人の生活使用水を30%減らす。

### 軍事予算の民生転換の促進

- 世界の軍事予算を50%削減し(1996年)、5000億ドル/年に抑制。

### 国際環境保護庁の創設

- 国連環境計画(UNEP)を改編し、地球環境を保護するのに必要な権威をもった、調整機関を設立。

\*

生態系は、あらゆる生物を糸として自然が織りなす美しくも不思議ないのちのネットワーク。地球上の生物は、一つ残らずこの生態系でつながっています。現在の環境の汚染や破壊もこの中に互いに作用しあい、複雑な問題となっています。

そして、これに立ち向かうもののひとつとして生まれたのがアースデイ。行動基本は「地球規模で考え地域で行動しよう」です。例えばアメリカのアースデイ・インターナショナルでは、90年代のグローバルゴールとして「西暦2000年に向けての目標」を提案しました。

しかしこれを実現するには具体的な、そしてその国や地域にあったプランが必要です。アメリカでは、家庭やグループでの行動案をつくる人びともできました。日本でもみんなで、具体的なアクションをつくっていきましょう。みなさん声をお寄せください。

## 「アースデイ●1990↔2000●日本」 ってなに?

1990年、アメリカのアースデイ・インターナショナルの「日本でもアースデイを」という呼びかけで生まれた連絡所です。全国で地球のために活動している人たちのネットワーキングや、何か始めようという人の情報交換のお手伝いをしていきたいと思っています。

いつもはボランティアのみなさんの手をかりて、各地の活動を紹介するニュースレターや地球にやさしい生活を提案する資料の発行などをしています。

うれしいことに、かなりのスピードで情報を送ってくれる方々も増え、各地で行動する人たちの間でのネットワークも育ってきました。東京以外でもアースデイ連絡所を自主的にやってくれているところもあり

ます。

これからもっともっと、このネットワークを日本全国に、さらに世界へと広げていきたい、という夢もふくらんできました。そのためにも日本中に連絡所をつくり、交流を持っていきたいと思っています。

それぞれの地域で連絡所を名乗り出してくれる方、アースデイに興味を持った方、ぜひ気軽に声をかけてください。